今井康雄教授略歴・研究業績一覧

略歴

1955年岐阜県生まれ。広島大学教育学部および同大学大学院教育学研究科で教育学を専攻。1982年３月、同研究科博士後期課程を単位取得退学。同年10月からドイツ学術交流会（DAAD）の奨学金によりゲッティンゲン大学で教育学、社会学、哲学を学ぶ。1984年９月に帰国し、同年10月、広島大学教育学部専任講師。1987年４月、東京学芸大学教育学部専任講師。1990年１月から３か月間DAADの奨学金によりハノーファー大学で客員研究員。1990年４月、東京学芸大学教育学部助教授。1994年７月、論文「ヴァルター・ベンヤミンの教育思想―メディア概念と教育との関係を中心として」で広島大学より博士(教育学)の学位を取得。1995年４月から１年間、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の奨学金によりベルリン自由大学で客員研究員。1997年４月、東京都立大学人文学部助教授。2000年４月、東京大学大学院教育学研究科助教授。2004年３月から半年間、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の奨学金によりベルリン自由大学で客員研究員。2007年４月、東京大学大学院教育学研究科教授。2010年４月から2012年３月まで東京大学教育学部附属中等教育学校校長。2012年10月から半年間、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の奨学金および日本学術振興会の科学研究費によりベルリン自由大学で客員研究員。2013年４月から日本女子大学人間社会学部教授。

研究業績一覧

凡例

本研究業績一覧には、現時点における今井康雄教授の著作を収録している。一覧作成にあたっては、各著作の原本、および今井教授よりいただいた著作リストを基本資料として、『東京大学大学院教育学研究科紀要』各号所収の「業績一覧」、国立情報学研究所論文情報ナビゲータ（CiNii）などを適宜参照した。

研究業績一覧は、「著書」「研究論文」「翻訳」「その他」に分類されており、各分類について「番号」「名称」「発行・発表年」「発行出版社、発表雑誌等」の四項目を立てている。

(一覧作成　編集委員会／土屋創／安部高太朗)

Ⅰ．著書

番号	名称	発行・発表年	発行出版社、発表雑誌等
1	「解放的教育学」	1985	小笠原道雄編『教育学における理論＝実践問題』学文社
2	「こどもとはなにか」	1988	伊津野朋弘／葉養正明編『現代教育の探求』協同出版
3	「文化伝達の基礎過程」	1988	小笠原道雄編『文化伝達と教育』福村出版
4	「回想の教育学的意味――ヴァルター・ベンヤミンにおける「経験」と「回想」」	1990	山本哲士編『教育が見えない』三交社
5	「教育の現代的条件を哲学する」	1991	小笠原道雄編『教育哲学』福村出版
6	「批判理論と構造主義」	1994	高橋勝／新井保幸編『教育哲学』樹村房
7	「教育学の課題」	1996	原聰介編『教育の本質と可能性』八千代出版

8	“Auf der Suche nach der vermißten Öffentlichkeit. Diskussionen in der japanischen Pädagogik der Nachkriegszeit”	1997	Krüger, H.H.／Olbertz, J.H. (Hg.): *Bildung zwischen Staat und Markt. Hauptdokumentationsband des 15. Kongresses der DGfE an der Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg*, Leverkusen: Leske＋Budrich
9	『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想――メディアのなかの教育』	1998	世織書房
10	「現代学校の状況と論理――＜生活と科学＞から＜美とメディア＞へ」	1998	佐伯胖他編『岩波講座　現代の教育、第2巻　学校像の模索』岩波書店
11	「ハーバーマスと教育学」	1999	原聰介／宮寺晃夫／森田尚人／森田伸子／今井康雄編『近代教育思想を読みなおす』新曜社
12	「教育学批判の系譜」	1999	同上
13	「完全に展開された主体の構成主義――現代日本における人間像の状況」	2000	小笠原道雄監修『近代教育の再構築』福村出版
14	“Die Entwicklung der Erziehungwissenschaften nach 1945”	2000	Haasch, G. (Hg.)： *Bildung und Erziehung in Japan*, Berlin: Edition Colloquium
15	「フランクフルト学派とディルタイ――ホルクハイマーとベンヤミンを中心に」	2001	西村晧／牧野英二／舟山俊明編『ディルタイと現代――歴史的理性批判の射程』法政大学出版局
16	「アウグスティヌス『告白』」	2001	佐藤学編『教育本44――転換期の教育を考える』平凡社
17	「野村芳兵衛『新教育に於ける学級経営』」	2001	同上
18	「ルソー『エミール』」	2001	同上
19	「ケイ『児童の世紀』」	2001	同上
20	「教育学の「ポストモダン」体験――日本の場合」	2001	増渕幸男／森田尚人編『現代教育学の地平―ポストモダニズムを超えて』南窓社
21	「子どもの美的経験の意味」	2003	佐藤学／今井康雄編『子どもたちの想像力を育む――アート教育の思想と実践』東京大学出版会
22	“Zum Verhältnis von Neuen Medien und Pädagogik. Der Stand der japanischen Diskussion”	2003	Gössmann, H.／Waldenberger, F. (Hg.): *Medien in Japan. Gesellschafts- und kulturwissenschaftliche Perspektive*, Hamburg: IFA
23	「メディアとしての「国語」――西尾・時枝論争を読みなおす」	2003	森田尚人／森田伸子／今井康雄編『教育と政治――戦後教育史を読みなおす』勁草書房
24	“Die Idee des ‘Musters (*Kata*)’ und ästhetische Konstruktion des Ich im japanischen Kontext”	2004	Huber, J. (Hg.): *Ästhetik Erfahrung*, Wien/New York: Springer
25	『メディアの教育学――「教育」の再定義のために』	2004	東京大学出版会
26	“Introduction: Aesthetic Experiences and Concepts of Aesthetic Education” (Wulf, Christophとの共著)	2007	Imai, Yasuo／Wulf, Christoph (eds.): *Concepts of Aesthetic Education. Japanese and European Perspectives*, Münster: Waxmann
27	“Aesthetic Mobilization through Media. The Case of *Hitlerjunge Quex*”	2007	同上

28	「教育とメディア―日本における議論の状況」	2007	広田照幸監修『リーディングス・日本の教育と社会』第10巻、北田暁大／大多和直樹編『子どもとニューメディア』日本図書センター
29	“Ein Kosmopolit hinter nationalsozialistischem Gitter? Zum pädagogischen Widerstand Adolf Reichweins”	2007	Kimura, N.／Moser von Filseck, K. (Hrsg.): *Universalituatsanspruch und partikulare Wirklichkeit. Natur- und Geisteswissenschaft im Dialog*, Würzburg: Königshausen/ Neumann
30	“Mobiltelefon und die Jugendlichen in Japan. Eine Fallstudie zur bildungstheoretischen Betrachtung neuer Medien”	2007	Wulf, Ch.／Zirfas, J. (Hrsg.): *Pädagogik des Performativen. Theorien, Methoden, Perspektiven*, Weinhaim/Basel: Beltz
31	「「学力」をどうとらえるか――現実が見えないグローバル化のなかで」	2008	田中智志編『グローバルな学びへ――協同と刷新の教育』東信堂
32	「言語――記号からメディアへ」	2009	田中智志／今井康雄編『キーワード　現代の教育学』東京大学出版会
33	「美――美と教育の関係はどのように考えられてきたか」	2009	同上
34	「メディア――教育をささえるもの」	2009	同上
35	「身と心――主体はいかに構築されるか」	2009	同上
36	「子どもとメディア」	2009	小笠原道雄編『進化する子ども学（教育的思考の作法３）』福村出版
37	「はじめに――教育思想史の考え方」	2009	今井康雄編『教育思想史』有斐閣
38	「古典的人間形成論――シラーからニーチェまで」	2009	同上
39	「新教育以後の教育思想」	2009	同上
40	「「教育学の変貌」に関する覚え書――教育学はいかに変貌を生き延びるか」	2009	矢野智司／今井康雄／秋田喜代美／佐藤学／広田照幸編『変貌する教育学』世織書房
41	「「学び」に関する哲学的考察の系譜」	2010	佐伯胖監修／渡部信一編『「学び」の認知科学事典』大修館書店
42	“Die Medien und die „Repräsentation”. Unterwegs zu einer pädagogischen Semantik der Medien”	2010	Cornelie Dietrich／Hans-Rüdiger Müller (Hrsg.): *Die Aufgabe der Erinnerung in der Pädagogik*, Bad Heilbrunn: Klinkhardt
43	「「過去の克服」と教育――アドルノの場合」	2011	對馬達雄編著『ドイツ　過去の克服と人間形成』昭和堂
44	「表象とメディア――教育学的メディア論のための一考察」	2012	田中毎実編『教育人間学――臨床と超越』東京大学出版会
45	「注意――教育的介入を亢進させる虚焦点」	2013	森田尚人／森田伸子編著『教育思想史で読む現代教育』勁草書房

II．研究論文

番号	名称	発行・発表年	発行出版社、発表雑誌等
1	「グスタフ・ヴィネケンとドイツ青年運動」１	1978	『教育学研究紀要』第24巻、日本教育学会中国四国支部会
2	「グスタフ・ヴィネケンとドイツ青年運動」２	1979	『教育学研究紀要』第25巻、日本教育学会中国四国支部会

3	「グスタフ・ヴィネケンとドイツ青年運動」3(完)	1982	『教育学研究紀要』第27巻、日本教育学会中国四国支部会
4	「グスタフ・ヴィネケンにおける社会批判的教育思想の両義性」	1980	『教育学研究』第47巻第3号、日本教育学会
5	「ジークフリート・ベルンフェルトにおける教育＝社会関係の構想」	1982	『教育学研究』第49巻第2号、日本教育学会
6	「『社会化と教育』――西ドイツ教育学における議論から」	1984	『教育学研究』第51巻第2号、日本教育学会
7	「野村芳兵衛における『教育意識』否定の論理」	1986	『広島大学教育学部紀要』第35号、広島大学教育学部
8	「教育学における＜目的-内容-方法＞図式への不満」	1986	『教育哲学研究』第56号、教育哲学会
9	「20世紀初頭ドイツにおける映画と教育（1）――映画改良運動の形成と展開」	1989	『東京学芸大学紀要』第40集、東京学芸大学紀要出版委員会
10	「フィルター・自己活動・回想――モレンハウアー『忘れられた連関』の余白に」	1990	『教育哲学研究』第61号、教育哲学会
11	「ドイツ教育学の現在――『ポストモダン』のあとに」	1992	『教育学年報』　第1号、世織書房
12	「遊びと労働とコミュニケーションと教育」	1992	『近代教育フォーラム』第1号、近代教育思想史研究会
13	「20世紀初頭ドイツにおける映画と教育(2)――雑誌『映像とフィルム』（1912-1915）の分析」	1992	『東京学芸大学紀要』第43集、東京学芸大学紀要出版委員会
14	“Film und Pädagogik in Deutschland 1912-1915. Eine Analyse der Zeitschrift *Bild und Film*”	1994	*Bildung und Erziehung*, 47. Jg., Heft 1
15	「＜新教育の地平＞の画定のために」	1994	『近代教育フォーラム』第3号、近代教育思想史研究会
16	「若きベンヤミンの思想形成――グスタフ・ヴィネケンとの関係を中心として」	1992	『教育学研究』第59巻第2号、日本教育学会
17	“Benjamin und Wyneken. Zur Entstehung des pädagogischen Denkens bei Walter Benjamin”	1996	*Neue Sammlung*, 36. Jg., Heft 1
18	「＜知識／行為＞問題の教育思想史的文脈」	1992	『教育哲学研究』第65号、教育哲学会
19	「ヴァルター・ベンヤミンにおける経験と教育――『プロレタリア子供劇場のプログラム』の一解釈」	1993	『東京学芸大学紀要』第44集、東京学芸大学紀要出版委員会
20	「ヴァルター・ベンヤミンの教育思想――アドルノ・ベンヤミン論争を中心として」	1993	『教育学年報』第2号、世織書房
21	“Massenmedien und Bildung. Eine pädagogische Interpretation der Adorno-Benjamin-Kontroverse”	1997	*Zeitschrift für Pädagogik*, 43. Jg., Heft 5
22	「ベンヤミンとデューイ――二つの教育思想の差異の構造」	1993	『教育哲学研究』第68号、教育哲学会
23	“Walter Benjamin and John Dewey: The Structure of Difference between Their Thoughts on Education”	2003	*Journal of Philosophy of Education*, Vol. 37, No. 1
24	「『自己活動』概念と新教育――＜ヴァルター・ベンヤミンの教育思想＞研究序説」	1994	『東京学芸大学紀要』第45集、東京学芸大学紀要出版委員会
25	「ライフサイクルと時間意識」	1994	『教育哲学研究』第69号、教育哲学会

26	「『進歩』なしの歴史、『発達』なしの人生——ヴァルター・ベンヤミンの歴史観と子供観」	1995	『東京学芸大学紀要』第46集、東京学芸大学紀要出版委員会
27	「見失われた公共性を求めて——戦後日本の教育学における議論」	1996	『近代教育フォーラム』第5号、近代教育思想史研究会
28	「メディア・美・教育——20世紀ドイツ教育思想史序説」	1997	『近代教育フォーラム』第6号、教育思想史学会
29	“Ein voll entwickelter Konstruktivismus des Subjekts. Die Situation des Menschenbildes der japanischen Gegenwart”	1998	*Jahrbuch für Bildungs- und Erziehungsphilosophie*, 1.Jg.
30	“Neue Medien im Spiegel der pädagogischen Diskussion in Japan (1984-1996)”	1998	*Zeitschrift für Erziehungswissenschaft*, 1. Jg., Heft 1
31	「教育とメディア——日本における議論の状況」	2002	『東京大学大学院教育学研究科教育学研究室紀要』第28号、東京大学大学院教育学研究科教育学研究室
32	「知識論の教育思想的文脈——生田論文へのコメント」	1998	『近代教育フォーラム』第7号、教育思想史学会
33	「芸術教育と映画批判——コンラート・ランゲの場合」	1999	『人文学報』第298号、東京都立大学人文学部
34	「「美と教育」の二つの焦点——シンポジウムでの議論を回顧して」	1999	『近代教育フォーラム』第8号、教育思想史学会
35	「教育学の暗き側面？——教育実践の不透明性について」	2001	『東京大学大学院教育学研究科教育学研究室紀要』第27号、東京大学大学院教育学研究科教育学研究室
36	「教育学の暗き側面？——教育実践の不透明性について」	2002	『現代思想』第30巻第5号、青土社
37	“Erfahrung, Repräsentation und Virtualität in der Pädagogik”	2002	*Jahrbuch für Bildungs- und Erziehungsphilosophie*, 4. Jg.
38	「教育学における経験・表象・仮想性」	2001	『近代教育フォーラム』第10号、教育思想史学会
39	「バウハウスの教育思想・試論——イッテンとモホリ＝ナギの対比をとおして」	2001	『教育学年報』第8号、世織書房
40	「教育学の「ポストモダン」体験——日本の場合」	2000	『教育哲学研究』第81号、教育哲学会
41	「ワイマール期ドイツにおけるアカデミズム教育学と芸術教育——美は教育にいかなる困難と可能性を導き入れたか」	2002	『東京大学大学院教育学研究科紀要』第41巻、東京大学大学院教育学研究科
42	「「自由電子」としての教育哲学」	2002	『教育哲学研究』第85号、教育哲学会
43	「神話と啓蒙の間で」	2003	『近代教育フォーラム』第12号、教育思想史学会
44	「ヴァルター・ベンヤミンと子どもの思想」	2003	『美学、考』第4号、ワタリウム美術館
45	「ニーチェの教養批判と言語批判」	2003	『教育哲学研究』第87号、教育哲学会
46	「教育学的メディア分析の可能性」	2004	『教育学年報』第10号、世織書房
47	“In search of the public and private: philosophy of education in post-war Japan”	2004	*Comparative Education*, Vol. 40, No. 4
48	「メディアを通しての美的影響行使——「ヒトラー青年クヴェックス」の場合」	2005	平成14-16年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(1)研究成果報告書『「美的なもの」の教育的影響に関する理論的・文化比較的研究』研究代表者　今井康雄、東京大学大学院教育学研究科

49	「アドルフ・ライヒヴァインのメディア教育学――教育的抵抗とは何か」	2005	『東京大学大学院教育学研究科紀要』第44巻、東京大学大学院教育学研究科
50	“Elemente des Widerstandes in der Medienpädagogik Adolf Reichweins”	2005	*Zeitschrift für Erziehungswissenschaft*, 8. Jg., Heft 3
51	「「基礎学力」――教育哲学の視点から」	2005	*Working Paper*、第16号(『「基礎学力」の再検討』)、基礎学力研究開発センター
52	「情報化時代の力の行方――ウィトゲンシュタインの後期哲学をてがかりとして」	2006	『教育学研究』第73巻第2号、日本教育学会
53	“Wittgensteins Dilemma. Zum Verhältnis von Körperlichkeit, Medialität und Imagination in der Erziehung”	2008	*Paragrana. Internationale Zeitschrift für Historische Anthropologie*, 17. Jg., Heft 1
54	「＜教育とメディア＞の歴史的編成――ペスタロッチからバウハウスまで」	2006	『日本の教育史学』第49集、教育史学会
55	「「自由」に対して責任を負うとはどういうことか――金森フォーラムに関するコメント」	2006	『近代教育フォーラム』第15号、教育思想史学会
56	“From ‘Postwor Pedagogy’ to ‘Post-Cold War Pedagogy’: An Overview of the History of Educational Theory in Japan 1945-2007”	2007	*Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No.2
57	「教育において「伝達」とは何か」	2008	『教育哲学研究』第97号、教育哲学会
58	「「純粋贈与者」はどこまで純粋か――教育の起源をめぐる不純な考察」	2008	『近代教育フォーラム』第17号、教育思想史学会
59	「私にとっての教育思想史(学会)」	2009	『近代教育フォーラム』第18号、教育思想史学会
60	「教育における「力」の概念」	2009	同上(田中智志、田村謙典、北原崇志、広田照幸との共著)
61	「言語はなぜ教育の問題になるのか」	2009	『教育哲学研究』100号記念特別号、教育哲学会
62	“Why does language matter to education? A comparison of Nietzschean and Wittgensteinian views”	2011	*Zeitschrift für Erziehungswissenschaft*, 14. Jg., Heft 3
63	「私の考える教育学」	2010	『三田教育学研究』第18号、三田教育学会
64	「「近代批判」のゆくえ」	2010	『教育思想史コメンタール』(『近代教育フォーラム別冊』)、教育思想史学会
65	“Responsibility and Judgement, for What? A Comment from a Benjaminian Perspective”	2011	*Finding Meaning, Cultures Across Borders: International Dialogues between Philosophy and Psychology (Proceedings of the 4th International Symposium between the Graduate School of Education, Kyoto University (Japan), and the Institute of Education, University of London (UK))*
66	「心の哲学と「力」の概念」	2011	『教育哲学研究』第103号、教育哲学会(河野哲也、松丸啓子との共著)
67	「「教育批判」の意味――ベンヤミンの「暴力批判論」を手がかりに」	2011	『近代教育フォーラム』第20号、教育思想史学会
68	「教育はどのように問われるべきか――教育と福祉の関係を手がかりとして」	2012	『教育哲学研究』第105号、教育哲学会
69	「メディアと国語と教育――メディア論の二つの系譜から考える」	2012	『国語科教育』第72集、全国大学国語教育学会

70	Ding und Medium in der Filmpädagogik unter dem Nationalsozialismus	2013	*Zeitschrift für Erziehungswissenschaft,* Sonderheft 25

III．翻訳

番号	名称	発行・発表年	発行出版社、発表雑誌等
1	モレンハウアー『忘れられた連関――＜教える-学ぶ＞とは何か』	1987	みすず書房
2	クラフキ『教育・人間性・民主主義』	1992	玉川大学出版部（共訳）
3	レールス／ショイアール編『現代ドイツ教育学の潮流』	1992	玉川大学出版部（共訳）
4	ヴルフ編『教育人間学入門』	2001	玉川大学出版部（共訳）
5	モレンハウアー『子供は美をどう経験するか――美的人間形成の根本問題』	2001	玉川大学出版部（共訳）
6	ヴルフ「歴史的教育人間学への転回」	2004	『東京大学大学院教育学研究科教育学研究室紀要』第30号、東京大学大学院教育学研究科教育学研究室
7	ボルツ「ニュー・メディア」	2005	ヴルフ編『歴史的人間学事典』第２巻、勉誠出版（藤川信夫の監訳）
8	パルメンティエー「美的人間形成論」	2007	『東京大学大学院教育学研究科教育学研究室紀要』第33号、東京大学大学院教育学研究科教育学研究室
9	アイクホフ「家」	2008	ヴルフ編『歴史的人間学事典』第１巻、勉誠出版（藤川信夫の監訳）
10	ドライツェル「苦」	2008	ヴルフ編『歴史的人間学事典』第３巻、勉誠出版（藤川信夫の監訳）
11	ノイマン「スローガンとしての自己制御学習――その二重の顔」	2008	『東京大学大学院教育学研究科教育学研究室紀要』第34号、東京大学大学院教育学研究科教育学研究室
12	ヴルフ「イメージ･まなざし･イマジネーション」	2009	『東京大学大学院教育学研究科教育学研究室紀要』第35号、東京大学大学院教育学研究科教育学研究室
13	ヴルフ「儀礼の再発見――ミメーシス・遂行性･儀礼的知――ベルリンにおける儀礼研究」	2009	矢野智司／今井康雄／秋田喜代美／佐藤学／広田照幸編『変貌する教育学』世織書房
14	モレンハウアー『回り道――文化と教育の陶冶論的考察』	2012	玉川大学出版部（真壁宏幹、野平慎二との共訳）

IV．その他

番号	名称	発行・発表年	発行出版社、発表雑誌等
1	「ドイツ教育学との交流」	1996	『教育哲学研究』第74号、教育哲学会
2	書評 「現象学的授業研究の到達点を測定する――中田基昭『授業の現象学』『教育の現象学』」	1997	『近代教育フォーラム』第６号、教育思想史学会
3	「研究討議に関する総括的報告」（教育哲学会第39回大会研究討議「教師の存在論」）	1997	『教育哲学研究』第75号、教育哲学会（田中毎実との共著）
4	書評 A. Schründer-Lenzen (Hersg.): *Harmonie und Konformität. Tradition und Krise japanischer Sozialisationsmuster*	1997	*Zeitschrift für internationale erziehungs- und sozialwissenschaftliche Forschung*, 14. Jg., Heft 1

5	図書紹介 「佐伯胖、藤田英典、佐藤学編『シリーズ 学びと文化』全6巻」	1997	『教育学研究』第64巻第1号、日本教育学会
6	「ドイツにおける二つの教育学専門誌の創刊をめぐって」	1999	『近代教育フォーラム』第8号、教育思想史学会
7	「モレンハウアー追悼シンポジウムに参加して」	1999	『教育哲学研究』第80号、教育哲学会（野平慎二との共著）
8	書評 Silvia Hedenigg: *Kindheitsbegriff japanischer Strafkonzeption*	2000	『近代教育フォーラム』第9号、教育思想史学会
9	書評 Horst Bokma: *Das pädagogische Experiment des Schreibenden. Untersuchungen zu Walter Benjamins Rezension pädagogischer Literatur von 1924 bis 1932*	2001	『近代教育フォーラム』第10号、教育思想史学会
10	「総括的報告」（教育哲学会第43会大会研究討議「学校の公共性と市場性を問う」）	2001	『教育哲学研究』第83号、教育哲学会（小玉重夫との共著）
11	討論 「徹底討論・教育はどこまでフィクションか」	2002	『研究室紀要』東京大学大学院教育学研究科教育学研究室、第28号（鈴木晶子、および院生との討論）
12	事典項目 「経験」	2002	『情報学事典』弘文堂
13	書評 「鈴木幹雄『ドイツにおける芸術教育学成立過程の研究』」	2002	『近代教育フォーラム』第11号、教育思想史学会
14	書評 「田中智志『他者の喪失から感受へ——近代の教育装置を超えて』」	2004	『教育哲学研究』第89号、教育哲学会
15	「研究討議に関する総括的報告」（教育哲学会第46会大会研究討議「メディア変容と教育」）	2004	『教育哲学研究』第89号、教育哲学会（矢野智司との共著）
16	報告書 『「美的なもの」の教育的影響に関する理論的・文化比較的研究』	2005	平成14-16年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(1)研究成果報告書、課題番号14310114、研究代表者 今井康雄、東京大学大学院教育学研究科
17	書評 「森田伸子『文字の経験——読むことと書くことの思想史』」	2006	『近代教育フォーラム』第15号、教育思想史学会
18	「教職をあきらめて」	2006	『進学情報センターニュース』第45号、東京大学教養学部進学情報センター
19	書評 「矢野智司著『贈与と交換の教育学——漱石、賢治と純粋贈与のレッスン』」	2008	『児童心理』881号、金子書房
20	書評 「對馬達雄『ナチズム・抵抗運動・戦後教育——「過去の克服」の原風景』」	2008	『日本の教育史学』第51集、教育史学会
21	「課題研究に関する総括的展望」（教育哲学会第51回大会課題研究「教育研究のなかの教育哲学——その位置とアイデンティティを問う」）	2009	『教育哲学研究』第99号、教育哲学会（西村拓生との共著）
22	「「力」って何？」	2009	『教育研究』筑波大学附属小学校初等教育研究会
23	「思想はエビデンスに勝るか？——『教育思想史』を刊行して」	2009	『書斎の窓』第589号、有斐閣
24	"Editorial: Reaching a Turning Point after 30 Years of Reform"	2009	*Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No. 4
25	書評 「鈴木幹雄／長谷川哲哉編『バウハウスと戦後ドイツ芸術大学改革』」	2010	『ドイツ研究』第44号、日本ドイツ学会
26	「教育の中心にメディアを導入する」	2010	『視聴覚教育』通巻749号、日本視聴覚教育協会

27	“Editorial: The Value of Publishing in English”	2010	*Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No. 5
28	「はじめに――教育の知はどこで生まれるか」	2011	『東大附属論集』第54号、東京大学教育学部附属中等教育学校
29	「はじめに――大学との双方向型の連携に向けて」	2012	『東大附属論集』第55号、東京大学教育学部附属中等教育学校
30	書評　「中田基昭『表情の感受性――日常生活の現象学への誘い』」	2012	『教育哲学研究』第105号、教育哲学会
31	「「情報」と「国語」の間」	2012	『月刊国語教育研究』第485号、日本国語教育学会